

建築士による提案内容への適合確認書

当該申請に係る住宅の設計内容と長期優良住宅先導事業の提案申請書に記載されている提案の内容との適合状況は、次のとおりであることを証明する。

平成〇〇年 〇月 〇日

二級・木造の方は登録都道府県名から明記すること

一級建築士 登録〇〇〇号
山田太郎 印

建築士による適合確認をした日付を記入して下さい。

提案名は変えないで下さい。

1. 住宅等の基本事項

提案名	新住協の断熱耐震同時改修プロジェクト
住宅の所在地	〇〇県〇〇市〇〇〇 ×-××-××
建て方等 (該当するものに「レ」)	<input checked="" type="checkbox"/> 一戸建ての住宅 (<input checked="" type="checkbox"/> 注文住宅 <input type="checkbox"/> 建売住宅 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 共同住宅等 (<input type="checkbox"/> 分譲住宅 <input type="checkbox"/> 賃貸住宅)
単独棟／複数棟 (該当するものに「レ」)	<input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 複数棟で構成される団地
構造・工法	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 (<input checked="" type="checkbox"/> 在来軸組 <input type="checkbox"/> 枠組壁工法 <input type="checkbox"/> プレハブ <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 鉄骨造 (<input type="checkbox"/> プレハブ <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> RC造 (<input type="checkbox"/> プレハブ <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> その他 ()
階数等	地上〇階建て (内〇階 〇〇号室)

(注)

1. 「提案名」欄には、提案申請書様式 1 に記載してある「応募事業提案名」を記載すること。
2. 1 戸建ての住宅については「階数等」欄の () 内の記載は不要。

2. 申請者等の概要

申請者	氏名又は名称 〇〇工務店 住所 〇〇県〇〇市〇〇〇 ×-××-××
建築主	氏名又は名称 山田 太郎 住所 〇〇県〇〇市〇〇〇 ×-××-××

記入しないで下さい。

3. 先導的な提案内容への適合状況

提案項目	提案概要	適合性確認の方法	適合性の評価
構造躯体の耐久性 (劣化対策)	1. 現状調査 木材の腐食、蟻害、 床下土間のカビ等の 調査。断熱材の状態、 充填部位や種類、厚さ 等の調査	事前調査書・写真等	○ 適 ・ 不適
	2. 床下の防湿 床下空間の良好環境	工事計画書	○ 適 ・ 不適
	3. 壁内に気流止めの施工 及び壁内結露防止	工事計画書	○ 適 ・ 不適
住宅の耐震性	住宅性能表示 耐震等級1以上へ改修	耐震診断表 耐震計画図	○ 適 ・ 不適
内装・設備の維持管理 の容易性	1. 改修部分の配管に鞘管を 採用しメンテナンスを容易 にする	平面図 工事計画書	○ 適 ・ 不適
	2. 天井、床の改修部分に点 検口を設け、管理しやすく する	平面図 工事計画書	○ 適 ・ 不適
変化に対応出来る良質 な住居空間	高断熱による温度差の少な い室内環境。冬季でもオー プンな暮らしを実現する	平面図等 工事計画書	○ 適 ・ 不適
長期に利用される躯体 において対応しておく べき性能 (省エネルギー対策)	1. 断熱材の補充、付加断熱、 開口部強化、熱交換換気 の採用などを行い、全地 域で次世代省エネ基準等 級4を目指す。I地域1.6、 II地域1.9、III地域2.4、 IV・V地域2.7。但し、I 地域でA工法の場合はII 地域同等とする。	QPEXによる計算書 工事計画書	○ 適 ・ 不適
			○ 適 ・ 不適
			実績報告時に確認
長期に利用される躯体 において対応しておく べき性能 (バリアフリー性)	高断熱による温度差の少な い室内環境によりオー プンな間取りが可能。バ リアフリー改修を容易に する	平面図等	○ 適 ・ 不適
長期に利用される躯体 において対応しておく べき性能 (防耐火性能)	付加断熱は通気層がある ので火災に対して安全な 断熱材を使用する。但し、 I、II地域では難燃性で も可	工事計画書	○ 適 ・ 不適

提案概要と書類をチェックし、適に○を付ける。
不適に一つでも○があった場合は補助対象外物件となり
ますので必ず適になるように計画してください。

1. 住宅性能表示制度の評価方法基準に係る項目については、設計住宅性能評価書又は基本性能確認書を確認し、適合性を評価（ただし、長期優良住宅建築等計画の認定基準に係る評価方法基準については評価不要）
2. 「提案項目」、「提案概要」、「適合性確認の方法」欄には、提案申請書様式4（新築戸建ての場合）及び提案申請書様式6に記載してある内容を記入すること。欄は適宜追加すること。
3. 「適合性の評価」欄には、どちらか該当する方に○をつけること。